

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士（医学）	氏名	曾我部 進
審査担当者	主査	教授	秋田 弘俊
	副査	教授	浅香 正博
	副査	教授	福田 諭
	副査	教授	白土 博樹
	副査	教授	野口 昌幸

### 学位論文題名

Retrospective cohort study on the safety and efficacy of bevacizumab with chemotherapy for metastatic colorectal cancer patients: the HGCSG0801 study  
(治癒切除不能進行/再発結腸直腸癌におけるベバシズマブの有用性と安全性を検討する  
レトロスペクティブ調査(HGCSG0801))

Bevacizumab (BV) は結腸直腸癌に対して広く用いられているが、本邦で多数例の検討はなく、また、一次治療から二次治療での BV 継続使用 (BBP) についてもエビデンスは少ない。

本研究では、日常診療における BV 併用化学療法と BBP の、有効性と安全性が検討された。有害事象は既報とほぼ同等であり、既報同様の有効性が再現された。BBP については、有害事象は忍容範囲内であったが、全生存期間の有意な延長は認められなかった。

審査会では、学位論文内容の発表後、副査野口教授より、BV 非使用例との比較の必要性、一次治療の FOLFOX, FOLFIRI の成績の差異の背景、BV 使用の経済的問題について質問があった。副査白 教授からは、解析項目が多岐で論点と結論が見えにくいとの指摘と、多施設共同試験であることの問題点に対する質問があった。副査福田教授からは、多施設共同試験であることと、各治療ラインの混在、症例数が決して多数ではないこと、BV の効果予測因子についての質問があった。副査浅香教授からは、本研究の結論の解釈についてのコメントがあった。主査秋田教授からは、人種差、BV の有効性及び有害事象のバイオマーカーについての質問があった。申請者は得られた研究データや文献的な知見を引用し、概ね妥当に回答した。

この論文は、Japanese Journal of Clinical Oncology 誌に accept されている。本研究により、本邦における BV の安全性及び有効性について、より実臨床を反映した結果が示され、BBP の全生存期間における有用性がないことが示された。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。